



Vol.30 2012年2月1日
会報・人間工学専門家認定機構編集委員会
<http://www.ergonomics.jp/product/newsletter.html>

➔ **会員からの報告**

会報を発行して7年が経ちました

松本啓太（富士通デザイン株式会社）

会報の編集を担当して7年が経ちます。節目となるこの30号に、自分自身が執筆させていただくことになりました。

会報は、4ページ程度の季刊ですから、量としてはわずかな紙面ですが、2004年11月の創刊以来、毎号、充実した記事を提供して下さる方に支えられ、絶えることなく続けられています。執筆者の皆様に、あらためてお礼申し上げます。

執筆依頼を通して、多くの専門家の皆様と知り合うことができました。学会などの場では、できるだけ執筆いただいた方に声をかけさせていただくのですが、面識のない方をお願いしているような場合には、気付けないことも多く、この場を借りて、お詫び申し上げます。

さて今号は、節目ということもあり、われわれ認定人間工学専門家自身のことを少し分析してみたいと思い、事務局から統計データをご提供いただきました。図1は専門領域を示す語を集計したもの（3個以上出現した語のみ）ですが、人間工学専門家が、社会の様々な領域で活躍していると感じさせられます。図2、図3は、年齢と地域の集計です。さて皆様は、どのようなことにお感じになられますか？

また、今号までの総目次も作りしましたので、末尾に記しました。今後も皆様に、「突然のお願いですが...」という執筆依頼メールを出し続けますので、受信された方は、どうぞよろしくお願い致します。

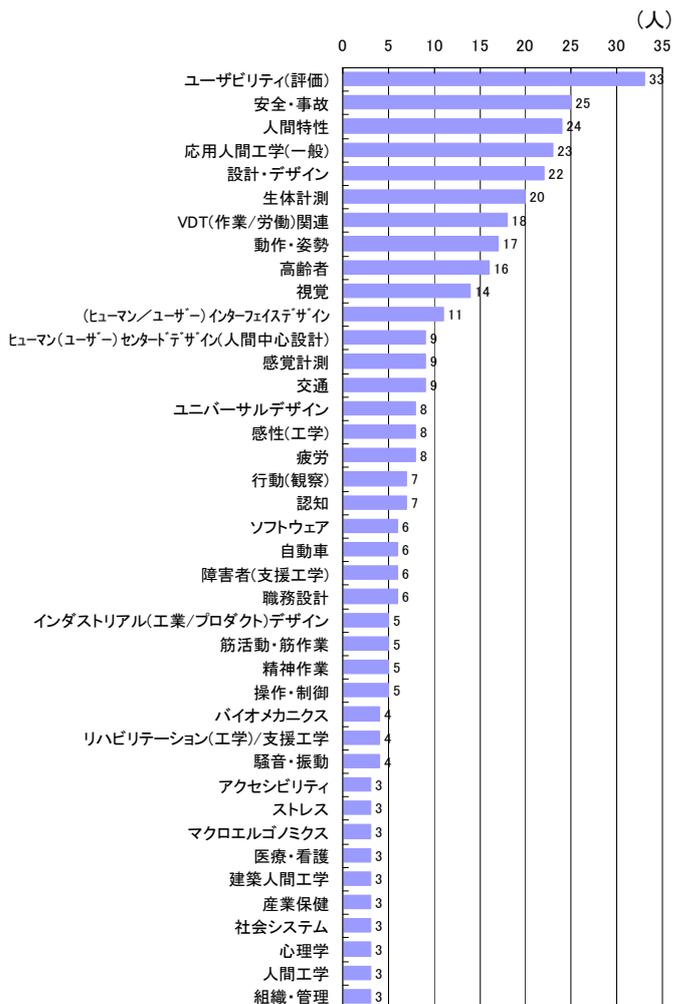


図1. 人間工学専門家の専門領域

※類似した語を集約、2個以下は省略

最頻出の語は、「ユーザビリティ(評価)」であった。製品開発における使いやすさの重要性が高まっていることを反映していると思われる。

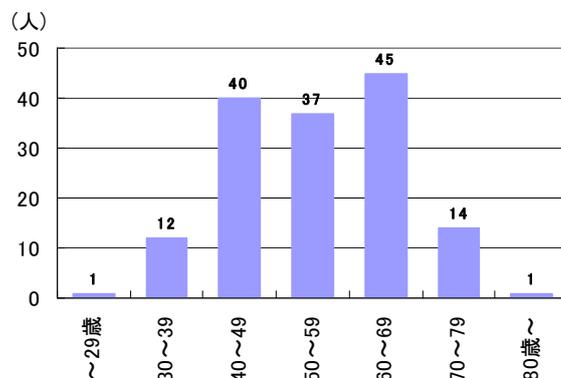


図2. 人間工学専門家の年齢 (2011.12.31 現在)

※ただし JES 会員を兼ねている方のみ

第一期募集、および B 方式試験では、10 年以上の実務を条件としているためか、年齢は高めである。

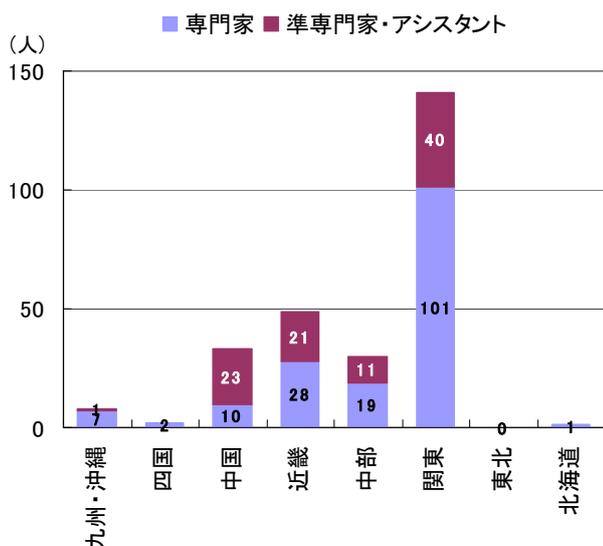


図3. 人間工学専門家の登録住所

圧倒的に関東地方が多く、近畿地方と続く。学校や企業の集中が要因と思われるが、人口比からいえば中国地方に多いことが特筆される。

【分析・集計 (図1)】永野行記

<http://www.ergonomics.jp/cpe/memberonly/index.html>

(会員専用ページ)

【統計データ作成・提供 (図2、3)】青木彩 (日本人間工学会および人間工学専門家認定機構事務局)

執筆者自己紹介

松本啓太:1985年千葉大学工学部卒業後、富士通に入社。デザイン部門において、ハードウェアの人間工学設計、VDT作業研究、ユーザーインターフェースデザイン、空間デザイン、ユーザビリティ評価、ユニバーサルデザイン等に従事。現在は、2007年に分社化した富士通デザインで、人間中心のイノベーションを起こすべく業務継続中。「会報・認定人間工学専門家認定機構」の編集を担当。

報告

2011年度CPEセミナー

11月25日、本年度のCPEセミナーが開催され、26名の専門家、準専門家が、大阪府門真市のパナソニック電工株式会社解析センターに集まりました。

青木和夫機構長の開会の挨拶に続き、解析センター長の奥澤将行様より、「パナソニック電工における人間工学の活用について」のご説明をいただきました。

同社で扱っているのは、住宅や公共の分野で利用される電気、情報、設備のシステム商品で、耐用年数の長いことが特徴で、長期間の安心・安全やエコ、快適性が求められています。そのために必要な解析評価技術をどのように構築してきたか、歴史、理念、組織、技術、設備、そして人間工学の役割や取り組み状況などに触れながら、ご紹介いただきました。同センターでは、「顧客との共創」という考えのもと、1998年以来、約36,000人のお客様を見学にご案内されたそうです。

ご説明の後、2グループに分かれ、センター内の実験室を見学しました。

最初の実験室で見せていただいたのは、商品が落下して頭に当たったり、隙間に指を挟んでしまうような事故が起きたことを想定しての実験設備です。部分的な人体模型を作成して、被害を測定する実験を積み重ねています。次に、センターのビル内に設えられた、一般家庭の住居のような実験室にご案内いただきました。ここでは、キッチン、トイレなどで使用される様々な住宅設備や電気製品のユーザビリティや快適性を評価しています。さらに、別棟に移動し、火災報知システムや、煙が充満したときの誘導サインの視認性の研究などを行なう、特殊な実験室も見せていただきました。こういった一つ一つの研究の成果が蓄積され、商品の安全性や快適性が高まっていることを、実感することができました。

見学後は、3人の認定人間工学専門家の方から、事例を中心にした、より詳しい活動内容について、話をうかがいました。

最初は、解析センターの小川哲史様から、UD・ユーザビリティ推進における人間工学の活用について、ご説明いただきました。同センターの特徴として、①多様なモニター評価体制、②使いやすさの科学的追求、③開発プロセスへの組み込み、があり、特に人間工学との関わりが深い②について、事例が紹介されました。電気シェーバーの握り心地の研究では、様々な測定項目の中から、手指の把持圧分布が、握り心地と高い相関があることを解明し、製品デザインに活かされました。また、アルカリイオン整水器の操作の分かりやすさの研究では、視線分析から、マニュアルを読むときの行動的特徴を発見し、改善に結び付けられたとのこと。こういった成果から、200以上の項目についてUD品質基準を策定したり、

UD認定評価制度を作って8年間で150商品以上を認定するなどの取組みが行なわれ、「ユニバーサルデザイン定量評価手法の開発および社内商品認定制度の構築」として、2011年のグッドデザイン賞を受賞されました。

二人目の解析センター立田美佳様からは、メタリック色の外観定量化技術の事例をご説明いただきました。家電や家屋の内装のデザインのトレンドにもなっているメタリック色は、不規則な光の吸収と反射が生じ、通常色のような統一的な評価指標がありません。そこで、人がメタリック色を、どういった視点で評価しているのか、形容詞対による官能評価から明らかにし、そこから分析された3つの因子と相関の高い光学的な計測値、およびその関係式を導出しました。これによって、計測値から、人からどのように評価されるかを推定できるようになったということです。また立田様からは、浴室等の汚れ感を定量化する技術を確立し、そこから、防汚性能や洗浄性能の目標値を立てたり、性能を検証している事例もご紹介いただきました。

最後は、先行技術開発研究所の岩川幹生様から、心理状態定量化の取組みについてのご説明をいただきました。これは、空間創造企業に必要な要素技術として、五感に刺激を受けたときの生体の心理・生理的反応を定量化、指標化する技術の開発です。ストレス状態を定量化する技法として、様々な心理状態（刺激提示）の主観データと生理データ（脳波、脳血流、発汗など）をもとに、ストレス時の心理状態を快適感、覚醒感、疲労感により表現できることを発見。それを生理指標によって相関モデル化した事例、および、そのモデルを用いて、呼吸法によってストレスを緩和させる効果を検討した事例をご紹介いただきました。

参加者には、同じような課題を持っている専門家も多かったようで、予定の時間を超過して、活発な質疑応答が行なわれました。福住伸一副機構長からの閉会の挨拶の後も、名刺交換や質疑の時間が続きました。

様々な事例や、見せていただいた実験室は、冒頭で解析センター長からご説明いただいた理念を体現する具体的実践として、説得力があり、その活動の一つ一つが、緻密なプロセスと深い洞察に溢れる内容でした。また、専門家同士の交流という点でも素晴らしいセミナーだったと思います。



写真：CPEセミナーの様子

●関連ウェブサイト

<http://www2.panasonic.co.jp/aec/index.html>

※「パナソニック電工株式会社」は、2012年1月1日より

「パナソニック株式会社」となりました。

（報告：松本啓太、記録・写真撮影：永野行記）

●人間工学専門家認定機構 2012 年度総会

来年度の総会は、4月19日（木）に開催の予定です。詳細は決定次第、メール等にてご連絡いたします。

●認定人間工学専門家の新規登録

新たに人間工学準専門家として認定された方をご紹介します。（敬称略）

【認定人間工学準専門家】

（2月1日認定）乾翔悟

○会報バックナンバー

<http://www.ergonomics.jp/product/newsletter.html>

○会報、編集委員会へのご意見、情報提供は

e-mail : cpnewsletter@ergonomics.jp

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-10-16 赤坂スクエアビル 2F

日本人間工学会事務局

会報・人間工学専門家認定機構編集委員会

【編集委員会メンバー】

松本啓太（編集委員長）、青木和夫、城戸恵美子、斉藤進、永野行記、藤田祐志、吉武良治

◆ 会報掲載記事一覧 (Vol.1~Vol.30)

<http://www.ergonomics.jp/product/newsletter.html>

Vol.1 (創刊号) 2004年11月1日

Resilience Engineering

藤田祐志 (テクノバ)

大学院の人間工学教育について

青木和夫 (日本大学理工学部)

こころと人間工学

落合孝則 (富士通健康管理センタ)

製品デザイン現場での人間工学専門家 (1)

三菱電機における事例

若松正晴 (三菱電機株式会社デザイン研究所)

Vol.2 2005年2月1日

モノづくりと人間工学との狭間で

岡田明 (大阪市立大学大学院)

IT 関連企業における人間工学

福住伸一 (NEC システム基盤ソフトウェア開発本部)

自然災害の多発に人間工学を想う

酒井一博 (労働科学研究所)

製品デザイン現場での人間工学専門家 (2)

シャープにおける事例

倉持淳子 (シャープ 総合デザインセンター)

Vol.3 2005年5月1日

環境との共生

井口弘和 (中京大学)

人間工学には縁がないというエンジニアたち

出浦淑枝 (コマツ 開発本部業務部 規制・標準グループ)

人間工学と感性

福田忠彦 (慶應義塾大学環境情報学部 教授)

製品デザイン現場での人間工学専門家 (3)

商品 (自動車) 開発現場における期待

大澄義正 (トヨタ自動車)

Vol.4 2005年8月1日

電気通信アクセシビリティガイドライン、JIS に対する人間工学的取組み

西村博史 (キヤノン株式会社ユーザビリティ技術開発室)

ユーザビリティ・スペシャリストとしての課題

瀧川佳孝 (IBM ビジネスコンサルティングサービス)

鉄道における人間工学研究のこれまでと現在

鈴木浩明 (鉄道総合技術研究所)

製品デザイン現場での人間工学専門家 (4)

積水化学工業 (株) での事例

植竹篤志 (積水化学工業(株)住宅技術研究所)

Vol.5 2005年11月1日

インタフェースデザイン設計論の必要性

井上勝雄 (広島国際大学人間環境学部)

研究機関紹介:産業技術総合研究所 人間福祉医工学研究部門

赤松幹之 (産業技術総合研究所)

労働安全衛生法改正に際して

加藤隆康 (株)グットライフデザイン)

製品デザイン現場での人間工学専門家 (5)

人間工学のものづくりへの活用

横山精光 (松下電工株式会社 住建総合技術センター)

Vol.6 2006年2月1日

東京駅から2km弱で...

石川文武 ((社)日本農業機械化協会)

一つのスイッチで広がる世界

青木久 (愛知県コロニー研究所)

有人宇宙開発と人間工学

山口孝夫 (宇宙航空研究開発機構)

製品デザイン現場での人間工学専門家 (6)

User Centered Design の実践

岡本郁子 (日本アイ・ビー・エム(株)

ユーザーエクスペリエンス デザイン・センター)

Vol.7 2006年5月1日

「生きた人間工学」を目指そう

石本明生 ((社)人間生活工学研究センター)

自主対応型作業関連運動器疾患予防活動

井谷徹 (名古屋市立大学大学院医学研究科)

黄信号のジレンマ:抑止のための取り組み

齋藤威 (TRS 研究所)

製品デザイン現場での人間工学専門家 (7)

Ergonomics と Human Factors の両方の視点をバランスよく持つ製品開発へ

伊藤育世 (株式会社ナナオ 機能ユニット開発部)

ユーザビリティ・エンジニアリング課)

本の紹介「ITのユニバーサルデザイン」

三樹弘之, 細野直恒 編著

富田豊 (慶應義塾大学)

Vol.8 2006年8月1日

人間工学との出会いー眼精疲労とパフォーマンスー

岩崎常人 (産業医科大学眼科学教室)

人間工学翻訳家の必要

石原恵子 (広島国際大学心理科学部)

ことばとインタフェースデザイン

武者祐司 (株式会社オキアルファクリエイト)

製品デザイン現場での人間工学専門家(8)

ユーザビリティマインドを備えたソフトウェア開発者によるソフトウェアの高品質化

小林正 (株式会社富士通ソフトウェアテクノロジーズ
共通技術統括部)

Vol.9 2006年11月1日

ポッドキャスト

山本雅康 (ソフトバンクモバイル株式会社)

航空事故調査と人間工学専門家

垣本由紀子 (実践女子大学人間工学研究室)

電力会社における人間工学の応用

河野龍太郎 (東京電力株式会社技術開発研究所)

製品デザイン現場での人間工学専門家(9)

人間工学を商品の研究開発にどう活かすか?

—マクロとマイクロ両方の人間工学ができる専門家を目指して—

石田健二 (株式会社デンソー 基礎研究所)

Vol.10 2007年2月1日

昨今の不可解な災害発生

畝正二 (近畿大学工学部)

デザインと看護をつなぐ人間工学

酒井正幸 (札幌市立大学デザイン学部)

建築・インテリア分野における人間工学の役割

白石光昭 (小山工業高等専門学校)

製品デザイン現場での人間工学専門家(10)

オフィスにおける人間工学

浅田晴之 (株式会社岡村製作所 オフィス研究所)

【報告】新しい資格制度導入とIEA エンドースメントについて

部会長 藤田祐志

Vol.11 2007年5月1日

障害者の二次障害予防

埜田和史 (滋賀医科大学社会医学講座予防医学分野)

本来の仕事のために

福成雄三 (住友金属工業株式会社 安全・健康部)

「The JES Ergonomics Roadmap」を「International Ergonomics Roadmap」へ発展させよう!

渡邊政嘉 (経済産業省)

製品デザイン現場での人間工学専門家(11)

「モビリティ」は人間生活技術の塊り

柳島孝幸 (日産自動車株式会社 社会フロンティア研究所)

Vol.12 2007年8月1日

【新部会長から】部会長就任にあたって

青木和夫 (日本大学大学院理工学研究科医療・福祉工学専攻)

【前部会長から】これからの認定人間工学専門資格制度への期待

藤田祐志 (株式会社テクノバ)

研究室紹介: 早稲田大学人間科学学術院 安全人間工学研究室

石田敏郎 (早稲田大学人間科学学術院)

福祉と人間工学

瀬尾明彦 (首都大学東京システムデザイン学部)

製品デザイン現場での人間工学専門家(12)

住宅の人間工学応用事例

菅野泰史 (大和ハウス工業株式会社 総合技術研究所)

Vol.13 2007年11月1日

誰のための支援設備?

大倉元宏 (成蹊大学理工学部・人間工学研究室)

人間工学と心理学の素敵な? 関係

北島洋樹 (財団法人 労働科学研究所)

【報告】IEA 認証取得記念講演会

齊藤進学会長

赤松幹之氏 (独立行政法人 産業技術総合研究所)

岡本郁子氏 (日本アイ・ビー・エム株式会社)

山口孝夫氏 (独立行政法人 宇宙航空研究開発機構)

(報告: 松本啓太)

Vol.14 2008年2月1日

新しく発足した日本人間工学会認定の人間工学専門資格制度への期待

大久保堯夫 (日本大学・健康科学研究所)

人間工学からのユニバーサルデザイン否定論

上野義雪 (千葉工業大学デザイン科学科)

医薬品取り違いの人間工学応用事例

三林洋介 (東京都立産業技術高専 医療福祉工学コース)

福祉(福祉工学)と人間工学

山羽和夫 (日本福祉大学健康科学部福祉工科学科)

学科長/4月着任予定)

Vol.15 2008年5月8日

モノづくり企業が人間工学に求めるもの

加藤象二郎 (愛知みずほ大学人間科学部)

人間工学の研究に関する倫理審査

小野雄一郎 (藤田保健衛生大学医学部公衆衛生学)

【報告】認定人間工学専門家部会 2008 講演会、総会

齊藤進学会長

八木佳子氏 (株式会社イトーキマーケティング本部 Ud&Eco 研究室)

北島洋樹氏 (財団法人労働科学研究所)

人間工学専門家部会総会

(報告: 松本啓太)

Vol.16 2008年8月1日

「子ども」の人間工学：雑感

小松原明哲（早稲田大学理工学術院）

子どもたちの「安全・安心」と「健やかな成長発達」の両立に向けて

横井泰治（NPO キッズデザイン協議会）

子どもと人間工学

酒井一博（労働科学研究所）

Vol.17 2008年11月1日

人間工学を活用した農業・園芸用鋏 Dr. Cut の開発

宇土博（広島文教女子大学福祉工学）

研究とコンサルの狭間から両立へ

佐相邦英（(財)電力中央研究所 社会経済研究所

ヒューマンファクター研究センター）

人間工学専門家からみた「アニマルセラピー」

小川家資（帝京科学大学 生命環境学部）

人間工学専門家資格のための実習教育

石原茂和（広島国際大学心理科学部感性デザイン学科）

もし重力がなければ...～宇宙ステーションの人間工学～

坂下哲也（宇宙航空研究開発機 JAXA）

看護大学における産学官協同研究

斎藤真（三重県立看護大学）

【報告】企業開催の支部大会・東海支部のグッドプラクティス

（日本人間工学会会長 齊藤進）

Vol.18 2009年2月1日

【日本人間工学会活動報告】人間工学実験指針について

横井孝志（産業技術総合研究所人間福祉医工学研究部門）

【日本人間工学会活動報告】JES 広報委員会の挑戦

一人間工学グッドプラクティスデータベースの展開

榎原毅（名古屋市立大学大学院医学研究科）

Vol.19 2009年5月14日

【特別寄稿】写真家 石松健男がとらえた人間工学

青木和夫（日本大学大学院理工学研究科）

【報告】認定人間工学専門家部会 2009 講演会

松波晴人氏（大阪ガス株式会社）

鰐部絵理子氏（ノキア・ジャパン株式会社）

（報告：松本啓太）

企業の人間工学人材育成手法の開発

松田文子（財団法人労働科学研究所）／企業の人材育成

プログラム開発委員会幹事

Vol.20 2009年8月1日

（「会報・人間工学専門家認定機構」に名称変更）

企業内情報システムの開発運用現場から

新家敦（株式会社島津ビジネスシステムズ システム開発部）

CAE と人間工学

大北幸宏（スズキ株式会社四輪プラットフォーム設計部）

今後の自動車開発と人間工学のあり方

武藤健（株式会社本田技術研究所 四輪 R&D センター）

人間工学を活用した製品開発事例のご紹介

藤原義久（三洋電機株式会社 研究開発本部）

認定専門家になって感じたこと

平尾章成（日産自動車株式会社）

超高齢社会における“癒し”の研究

坂本和義（電気通信大学 産学官連携センター）

Vol.21 2009年11月1日

夏の登山と凍死

垣鏑直（名城大学理工学部環境創造学科）

高齢者の運動・スポーツ事情に即した人間工学の役割

佐藤望（近畿大学理工学部）

最近の山岳事故の要因とトムラウシ山遭難事故に関する考察

鳥居塚崇（日本大学生産工学部）

製品デザイン現場での人間工学専門家（13）

企業内情報システムの開発運用現場から

新家敦（株式会社島津ビジネスシステムズ システム開発部）

Vol.22 2010年2月1日

ドライバーへの情報提示に関する一考察

伊藤一也（日産自動車株式会社 実験技術開発部）

使い勝手との出会い

吉川嘉修（富士通デザイン株式会社ソリューションデザイン部）

国を超えた人間工学の業務について思うこと

岡田衛（レノボ・ジャパン株式会社 研究・開発・デザイン）

頭上収納に対する意識について

松井真治（クリナップ(株) キッチン事業部開発部）

商品につながる生理生体評価

立田美佳（パナソニック電工解析センター株式会社

ユーザビリティ事業部）

【特別寄稿】人間工学専門資格制度の国際動向について

青木和夫（日本大学大学院理工学研究科）

Vol.23 2010年5月10日

製品デザイン現場での人間工学専門家（14）

シューズ、靴型に係わって

山本郁也

製品デザイン現場での人間工学専門家 (15)

ドライバの特徴に合わせた運転支援情報提供
三浦泰彦 (マツダ株式会社)

製品デザイン現場での人間工学専門家 (16)

デザイン開発現場と人間工学
奥田充一 (シャープ株式会社)

製品デザイン現場での人間工学専門家 (17)

人間工学の製品デザイン現場への定着
西山憲治 (E&U Design)

【報告】HCD-Net の専門家資格認定制度がスタート
(吉武良治)

【報告】平成 22 年度 総会・講演会

青木和夫氏

藤田祐志氏

山本雅康氏 (ソフトバンクモバイル株式会社プロダクト・サービス本部)

(報告：鱈部絵理子)

Vol.24 2010年8月1日

日本人間工学会全国大会におけるシンポジウム実施報告
福住伸一 (NEC) /シンポジウムコーディネーター

【書籍紹介】『増補新版 人間工学』正田 亘 著
(紹介：正田 亘)

【書籍紹介】『人間の許容限界事典』山崎昌廣、坂本和義、
関邦博 編
(紹介：恩田和征)

【書籍紹介】『魅力的なインタフェースをデザインする』
井上勝雄 著

『PowerPoint によるインタフェースデザイン開発』

井上勝雄 編

(紹介：井上勝雄)

Vol.25 2010年11月1日

ユニバーサルデザインにおけるトレードオフ

澤島秀成 (奈良県工業技術センター)

自転車にまつわる人間工学

梶家秀彦 (ズノウイースト)

Vol.26 2011年2月1日

人間工学はエデンの園へ戻ろうとする人間側の努力と
チャレンジ?

朴美卿 (首都大学東京システムデザイン学部)

研究室紹介：フィールドを通して学生の自己成長を促す
ことができると願っています

申紅仙 (常磐大学人間科学部心理学科 申研究室)

台湾での人間中心設計の実践談

森亮太 (株式会社マキタ 技術研究部)

資格取得に際して思うこと

永野行記 (富士通デザイン株式会社)

CPE セミナー報告

横井元治 (本田技術研究所)

Vol.27 2011年5月13日

人間工学専門家の仕事の現場から

河内義晴 (東和産業株式会社企画部)

【報告】平成 23 年度 総会・講演会、緊急意見交換会

申紅仙 氏 (常磐大学人間科学部)

斉藤進理事長 (日本人間工学会)

芳賀繁 氏 (立教大学現代心理学部)

藤田祐志 氏 (株式会社テクノバ)

意見交換

(報告：松本啓太、記録：永野行記)

Vol.28 2011年8月1日

【寄稿】地震・津波・原発と人間工学

北村正晴 (東北大学)

ユーザビリティ設計開発における人間工学

池上輝哉 (NECサービスプラットフォーム研究所)

UI 事例の収集と活用

善方日出夫 (富士通デザイン株式会社 フィールド・
ソリューションデザイン部)

日本人間工学会 第 52 回大会を開催して

河合隆史 (早稲田大学 理工学術院)

Vol.29 2011年11月1日

人間工学に触れた初心に戻って

藤居由香 (島根県立大学短期大学部)

文化や習慣を理解することの重要性

五十嵐智貴 (日産自動車株式会社)

認定人間工学専門家としての役割

嘉代憲司 (大森電機工業)

アフォーダンスしない身近なもの～アメリカにて

岩間吉克 (コマツ)

Vol.30 2012年2月1日

会報を発行して7年が経ちました

松本啓太 (富士通デザイン株式会社)

【報告】2011年度CPEセミナー

(報告：松本啓太、記録・写真撮影：永野行記)

✦ **会議等の開催記録**

認定人間工学専門家部会 設立総会

2003年8月2日(土) 15:00~17:00
東京芸術大学上野キャンパス 音楽学部内 第6ホール
(東京都台東区)

認定人間工学専門家部会平成16年度総会

2004年4月10日(土) 13:00~15:00
日本大学理工学部駿河台校舎1号館122会議室
(東京都千代田区)

認定人間工学専門家部会 平成17年度総会

2005年4月16日(土) 13:00~15:00
中央大学駿河台記念館330号室
(東京都千代田区)
⇒部会報 Vol.3

認定人間工学専門家部会 平成18年度総会

2006年4月22日(土) 13:00~15:00
日本大学理工学部駿河台1号館122会議室
(東京都千代田区)
⇒部会報 Vol.8

認定人間工学専門家部会 平成19年度総会

2007年4月21日(土) 10:30~11:30
中央大学駿河台記念館670号室
(東京都千代田区)
⇒部会報 Vol.11

認定人間工学専門家部会

IEA 認証取得記念講演会・臨時総会

2007年10月27日(土) 13:30~17:00
日本大学理工学部駿河台1号館122会議室
(東京都千代田区)
⇒部会報 Vol.13

認定人間工学専門家部会 2008年度講演会・総会

2008年4月25日(金) 14:00~17:00
日本大学理工学部駿河台1号館122会議室
(東京都千代田区)
⇒部会報 Vol.15

認定人間工学専門家部会 2009年度講演会・総会

2009年4月22日(水) 14:00~17:00
中央大学駿河台記念館610号室
(東京都千代田区)
⇒部会報 Vol.19

人間工学専門家認定機構 2010年度講演会・総会

2010年4月23日(金) 14:00~17:00
中央大学駿河台記念館330号室
(東京都千代田区)
⇒会報 Vol.23

第1回 CPE セミナー

2010年11月19日(金) 15:00~17:30
岡村製作所オカムライすの博物館
(東京都千代田区)
⇒会報 Vol.26

**人間工学専門家認定機構 2011年度講演会・総会
緊急意見交換会(日本人間工学会共催)**

2011年4月22日(金) 14:30~17:00
中央大学駿河台記念館320号室
(東京都千代田区)
⇒会報 Vol.27

第2回 CPE セミナー

2011年11月25日(金) 15:30~18:00
パナソニック電気株式会社門真本社品質評価棟
(大阪府門真市)
⇒会報 Vol.30